

論点提起

「愛知県における活用方法について」



三矢 勝司

NPO岡崎まち育てセンター・りた 事務局次長
名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター 研究員

自己紹介



三矢 勝司

- ・ 岡崎市出身。千葉大大学院で市民参加による住まい・まちづくりを学ぶ。
- ・ 2006年、NPO法人岡崎まち育てセンター・りたを設立し、事務局長を務めた（国土交通大臣賞を受賞）。
- ・ 専門は市民参加による公共空間計画や地域マネジメント。博士（工学）。

【市民活動の資金支援に関連する実績】

- ・ 世田谷まちづくりファンド評価研究1999
- ・ 豊明市市民協働推進委員会・委員長2011-
- ・ 岩倉市市民活動助成金審査委員会・委員長2012-
- ・ 一宮市市民活動支援制度・委員2014-
- ・ (豊田市) ミライのフューチャリティコンテスト・実行委員長2015
- ・ (名古屋) まちづくり基金運営委員会・委員2016-

新世紀岡崎チャレンジ100

— 申請数112、採択93 = 大小200を超えるイベントが各地で展開



新世紀岡崎チャレンジ100の質的成果

- ① 100の市民プロジェクトに上限100万。
総額1億円を市民に投資 = **インパクト大**
- ② **新しい社会的活動の担い手**との出会い
(10年間の活動支援歴の外側 ※後述)
- ③ **眠っていた地域資源**が覚醒
(日の目を見なかった土地建物が再生)
(現役世代、学生らの社会参加)

新世紀岡崎チャレンジ100 プロジェクトガイド

発行元：新世紀岡崎委員会

問合せ先：新世紀岡崎チャレンジ100事務局
TEL/FAX:0564-65-7850
〒444-0059 愛知県岡崎市康生通西4丁目71
岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 2F

公式サイト：
<http://challenge100.jp/>

※本ガイドは平成28年3月9日時点の情報に基づき作成しております。内容は予告なく変更になる場合がございますので、最新情報は公式サイトか、事務局へご確認ください。※画像はイメージです。

プロジェクトテーマ

観光・情報	音楽・演劇
教育	医療・福祉
文化芸術	健康・スポーツ
まちづくり	子ども
産業	伝統芸能

プロジェクトスタイル

ホームイベント	展示
コンサート	交流
パフォーミング	スポーツ
ワークショップ	情報発信
ウォークラリー	

<p>相模橋向を通じて「明るく楽しく元氣よく」</p> <p>5月4日(水)、7月16日(土) 岡崎市シビックセンター 緑か</p> <p>相模橋の名所旧跡や八丁味噌を覗い込み、郷土愛を深める書写や、オレオレ詐欺防止等、交通安全啓発、元気で生活するピンポンコロリ運動などの、高齢者の生活力、考え方の指針となるような顕彰の発表会を行います。</p> <p>三河相模橋会</p>	<p>市街が作る「岡崎市民のための相模橋手続き手引冊(書式付)」編集及び広報・活用のための発表会</p> <p>5月6日(金)18時 岡崎市電業社会館 緑か</p> <p>相模橋の手続きが前もって分かり、準備をして能くこのできる資料集を一冊作成し、専門責任者(弁護士、税理士、公認士等)と共にワークショップ等を開催し、具体的なかつ分かりやすい解説編を作成します。</p> <p>全国相模橋会相模支援センター 愛知県三河支部</p>	<p>舞台上使用される面をみんなで作って観る 新能の集い</p> <p>5月7日(土) 岡崎城二の丸劇場</p> <p>一般参加を募り、舞台上で使用される「乙」の3段を制作する体験講座。舞臺劇による形のお話と音楽をつけたこのお話を、一般参加者、生徒演劇「平家物語」、狂言「穴地蔵」、能「清経」の本公演を行います。</p> <p>神屯威園の会</p>	<p>能見神明堂で「能を見る」プロジェクト</p> <p>5月7日(土) 能見神明堂</p> <p>地名に込められた歴史文化と向き合う機会の3段を制作する体験講座。舞臺劇による形のお話と音楽をつけたこのお話を、一般参加者、生徒演劇「平家物語」、狂言「穴地蔵」、能「清経」の本公演を行います。</p> <p>能見神明堂で「能を見る」会</p>	<p>三太夫「神明堂大舞」でO・MO・TE・NA・SHIプロジェクト</p> <p>5月7日(土)、8日(日) 元見町 緑か</p> <p>来場者がつくりだす舞台の山車おひねり舞臺の上の舞を観覧しやすくなる舞臺改修「O・MO・TE・NA・SHI」を創設して準備者ももてなす。また各団体の演舞のレンタルを実施し、山車曳きに参加していただきます。</p> <p>三太夫「神明堂大舞」でO・MO・TE・NA・SHI</p>
---	---	--	--	--

新世紀岡崎チャレンジ100の成果要因

量的成果

- ①膨大な数のイベント（全200以上）
- ②多様な担い手
 - ・市民活動団体 50
 - ・地縁系組織 16
 - ・企業や専門家等 14
 - ・教育機関、学生 10

全体の3割弱が
新しい勢力

要因

- ①充実した説明会（市内で全6回）
- ②地元中間支援組織によるサポート
 - ・申請時、決算時の事務サポート
 - ・実施団体の支援
(独自のネットワークを活用)
(現地訪問で正しく情報把握)
 - ・団体同士の交流促進（全5回）

チャレンジ
100事務局

愛知県ヒアリングに関する疑問

基礎自治体の市民活動助成金制度に応募する団体の数が減っている（ところが散見される）

- ①【県】市民活動に対する資金的支援の必要性が減少している？
- ②【三矢】市民活動の担い手のニーズの変化に対応していない？（→変化対応をする必要性 ※後述）
- ③【三矢】市民活動の担い手が知らないのでは？（→周知手段、アウトリーチ手法の改善）

ニーズの変化に関する私見

- ①市民活動の担い手の基本パターン（子育てが終わった女性、会社を退職した男性）
→引き続き活動をしているが、高齢化で活動が衰退する団体も散見される。
- ②新しい市民活動の担い手（子育て中の助成、プロボノ系男性）
→相談窓口の柔軟性（開設時間の柔軟性）
→共働きが多数派となった今、バイト代程度は出したい（人件費に使える助成金は少ない）
→相談員の多様性（世代や属性）が必要。

モリコロ基金にお世話になった身として

- ①助成総額が大きく（年間1億円）、有名。
- ②少額助成金（5万、10万）なら、基礎自治体がやっている。
→50万、100万、500万といった事業型NPOでも申請したくなる助成金額設定が有用。
- ③相談員が優秀（活動者の目線）。

論点提起①

事業化至上主義？！

- ・コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの促進は大事だが、全てがそれで解決するわけではない。
- ・「二次顧客論（受益者であるホームレスから資金調達ができないので、助成金や行政からの支援が必要）」からすれば、**受益者から資金調達できない活動もある**ことを織り込んでおくべき。

論点提起②

多様な助成財団を用意できるか？！

- ・一般論として、アメリカのNPOの隆盛は「多様な助成財団の存在」。
- ・愛知県は特に**中間支援組織が発達**。
- ・人権問題、エネルギー問題、マイノリティ問題など、行政が手を出しにくく、市民団体から選択肢を用意すべき活動を支援する助成財団も必要。

論点提起③

市民活動はアンコトローラブル？！

- ・市民が答えなき問題に挑むことが宝（市民活動は行政活動に先んじる）。
※失敗しない分野なら行政がやるべき。
- ・助成側に「**現場にこそ新しい答えがある**」というマインドが重要であり、管理監督する姿勢は誤り。
（※会議なし、リーダーなし、でも結果を出せる地域団体は存在する）

おしまい。



特定非営利活動法人

岡山まち育てセンター・LjTe